令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【さいたま市立美園北小学校】

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞自らの課題を認識・自己決定し、それの解決に向けて工夫・努力して取り組む力をのばしたい。 ＜指導上の課題＞ 個人差、学年差が大きいので、個に応じた指導や、学年に応じた指導を充実させていく必要がある。	⇒	書き込み式ドリルやドリルパーク等の利活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習を進めていくことができるよう指導する。高学年においては、課題も含めた家庭学習を児童自身が計画し、取り組んだ内容について記録したものを担任が個別の学習状況に応じて指導支援を行う【学年に応じて毎日～週に1度程度】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞理科：実験の概要の説明 社会：2つの異なる事象についての関連性の説明 国語：話し手の意図をとらえ、効果的な助言をする ＜指導上の課題＞ 個人差、学年差が大きい。児童主体の学習活動の機会を十分に確保する必要がある。	⇒	評価基準を明確にし、児童主体のふり返りを充実させることで、授業に対しての主体性を高める。【毎日】 ICTを効果的に活用する等して、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面の設定を行い、授業に対しての主体性を高める。【毎日】

②	全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	知識・技能の観点では、国語の語彙や文法、理科の地球領域などで高い正答率を示しており、基礎的な理解はおおむね定着している。算数では計算やデータの読み取りに安定した成果が見られたが、図形や測定などの領域では、理解の定着に向けた継続的な支援が必要である。
思考・判断・表現	思考・判断・表現の観点では、国語の「話す・聞く」「書く」領域において、考えを整理して伝える力が育ってきている。一方で、文章の構造を捉える力や、記述式問題への対応には課題が見られた。算数・理科においても、考え方を言語化する力や、根拠をもって説明する力の育成が今後の重点となる。 今後は、記述式問題への対応力を高めるため、授業の中で「考えを言葉で表す活動」や「根拠をもとに説明する場面」を意図的に取り入れ、児童の思考力と表現力の向上を図っていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	児童一人ひとりの課題に応じた学習支援として、ドリル教材などを活用し、個別の学習を進めている。高学年では家庭学習の計画と記録をもとに、担任が個別支援を行う体制を整えている。これらの取組は継続的に**実施**されており、児童の基礎的な知識・技能の定着が進んでいる。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童の主体性を高めるため、授業でのふり返り活動やICTの活用を通じて、自力で課題に取り組む場面を意図的に設定している。これらにより、児童の思考力・表現力の育成が進んでいる。また、ふり返り活動によって児童が自分の文章を見直す機会を定期的に設けることなども意識して、記述力向上も目指していく。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	理科において課題が見られた。具体的には「体積」「回路」「断層」といった用語や、「水に溶けた物質の拡散」といった個別的な知識の正答率が低い傾向にある。今後は既習事項の復習や反復学習により、定着を図る。また、単なる暗記に留まらず、概念的な理解を深めることで、確かな知識・技能を習得できるような授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	全教科で高い水準を示した。これは、授業内での発表や協働学習に加え、地域住民や外部講師を活用した多角的な学びの場を設けた成果といえる。今後も目的意識を持ち、自分の考えや思いを適切に発信する活動を重視していく。

⑤	評価（※）	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	書き込み式ドリルや「ドリルパーク」の活用により、個々の課題に応じた個別最適な学習を展開した。高学年では、児童自らが家庭学習の計画を立て、その記録に対して担任が個別に助言・支援を行うことで、自学自習の習慣化を促した。
思考・判断・表現	A	ルーブリック評価の導入により、児童主体の振り返りを充実させた。また、ICTを協働学習や自習における解決手段として効果的に活用したことで、学習に対する主体性を高めることができた。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	今年度、高学年での紙のドリルの一律購入は見送ったが、デジタル教材と併用して紙の書き込み式ドリルを活用するなど、多角的な定着支援を検討する。また、各教科特有の用語等についても、定期的な復習機会を設け、確実な定着を目指す。
思考・判断・表現	本校の強みである「協働学習」や「ICT活用」を継続・発展させていく。 個々の教員の多様性を活かしつつ、学校・学年として指導の足並みを揃え、組織として効果的な授業改善に取り組んでいく。